

海域の概要

本湾は、岩手県東岸の中央部に位置する湾で、奥行きが深い湾内には宮古港があります。湾内ではワカメ・コンブ・ホタテ・カキなどの養殖が行われています。



Specification

諸元

湾口幅：4.8 km

面積：24.1 km²

湾内最大水深：7.6 m

湾口最大水深：7.6 m

閉鎖度指標：1.02

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

岩手県宮古市閉伊崎北端と同市姉ヶ崎東端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

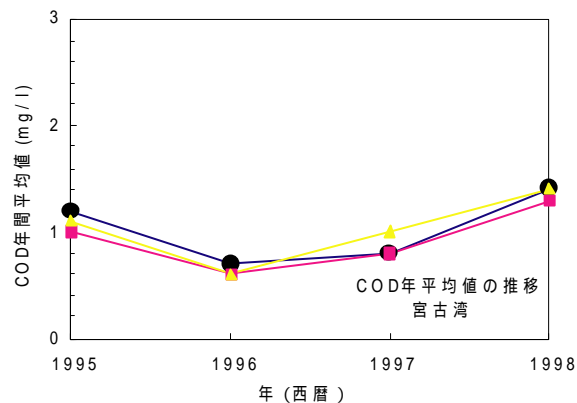


環境

湾口を太平洋に開いた湾で、沖合で黒潮続流と親潮がぶつかっています。気候は寒冷で、夏季には親潮の影響で海霧が発生します。

湾口に閉伊川が流入し、宮古市街地がありますが、水質は良好で、COD 年平均値の推移をみると、1mg/l 前後の値で推移しています。

底質は、湾奥部で砂質となっているほか、概ね泥質で構成されています。



自然

陸中海岸国立公園の一部をなし、湾奥に位置する宮古の景観を代表する浄土ヶ浜は、国立公園の主要拠点の一つとなっています。

湾奥の閉伊川河口付近にはアマモ場、湾東岸の岩礁にはコンブ、ワカメを主体とする海中林やガラモ場が分布します。

宮古湾南側に突き出た重茂半島は本州最東端に位置し、断崖に立つ白亜の灯台は、映画「喜びも悲しみも幾歳月」の舞台になりました。

浄土ヶ浜には北の大沢海岸に突き出た巨大な岩のローソク岩や潮吹穴があります。ローソク岩は、火成岩が周囲の水成岩を突き破って形成され、岩脈部分が露出し全体が見られる珍しい岩で、天然記念物に指定されています。



浄土ヶ浜

文化歴史

宮古地方からは多くの遺跡が発見されており、太古の昔からこの地方の山と海の幸を求め、多くの先人が暮らしていたことがわかりますが、有史以降も長い間、中央政権の支配からは無縁であったと思われる。しかし、鎌倉時代に入り、源頼朝の御家人・閉伊氏が宮古に館を築き、宮古地方の統治が始まりました。その後、土岐氏、千徳氏などの豪族が君臨しましたが、次第に八戸・三戸地方から勢力を伸ばしてきた南部氏に相次いで滅ぼされてしまいました。また、戊辰の役の「箱館戦争」の勝敗の鍵を握る戦いが、ここ宮古港沖で繰り上げられました。

宮古港は江戸時代中期以降、海産物の移出港として発展し、昭和 9 年には山田線の開通やラサ工業等の近代工場の相次ぐ操業開始で隆盛を極めました。

産業

宮古地方の中心都市は、三陸漁業の拠点として発展してきました。鮭の水揚げが県内一であり、サケは市のシンボルにもなっています。

浄土ヶ浜は陸中海岸国立公園を代表する観光地であり、ウミネコに餌付けもできる観光船の発着場でもあり、市内の魚菜市場には水揚げされたばかりの魚介類や北上山地の多彩な食材が並びます。日本一の生産量を誇るワカメをはじめ、コンブやスルメなどの乾物各種水産加工品も観光客の人気です。

主な観光施設としては、レストハウス、県立水産科学館をはじめ、観光船発着所、マリンハウスなどがあります。



魚菜市场